12.　肝動注療法における ^{99m}Tc-GSA を用いた肝機能および肝内薬剤分布の評価

中村　一彦　　小林美登利
（国立浜田病院・放）

肝動注化学療法において，投与された薬剤の肝内分布の評価には，従来より ^{99m}Tc-MAA を用いた肝動脈血流シンチグラフィが行われている．今回，われわれは，^{99m}Tc-GSA を用いた肝動注シンチグラフィを行い，肝機能および肝内薬剤分布の評価を試みた．リザーバーからの肝動注化学療法を行っている 4 症例を対象とし，^{99m}Tc-GSA 185 MBq を用手注入し，連続イメージおよび SPECT を撮像した．HH15 および LHL15 をパラメータとして，生化学的肝機能検査との相関を検討したところ，HH15 と ICGR15 との相関が示唆された．また，得られたイメージは，リザーバーからの肝動脈造影での血流分布をよく反映しており，今後この検査が，^{99m}Tc-MAA を用いた肝動脈血流シンチグラフィに変わり得る可能性が示唆された．

13.　^{111}In 標識ヒト免疫グロブリンによる腫瘍シンチグラフィの試み

大塚　信昭　　曽根　照喜　　森田　浩一
福永　仁夫　　（川崎医大・放核）
森　　俊博　　梶原　康正　　（同・放診）

最近，核医学的に感染および炎症巣の検出のための新しい放射性医薬品として ^{111}In-DTPA-IgG が注目されている．しかし，^{111}In-DTPA-IgG の炎症巣への集積機序として，炎症過程における毛細血管の透過性の亢進による蛋白の漏出と考えられているため血管透過性の亢進する悪性腫瘍で集積亢進を示すことが予想される．そこで，われわれは VX-2 担癌家兎を用いて ^{111}In-DTPA-IgG の腫瘍親和性放射性医薬品としての有用性を ^{99m}Tc-MIBI と比較検討した．その結果，既報のごとく，^{99m}Tc-MIBI は腫瘍集積性は良好であるが，^{111}In-DTPA-IgG は ^{99m}Tc-MIBI に比しても腫瘍集積性は著明であった．また，腫瘍部，壊死部，正常筋組織の 1 g あたりの ^{111}In の count を求めると腫瘍部よりも壊死部への count 比が高く，^{111}In-DTPA-IgG の腫瘍への高集積は壊死部への集積がかなり関与していることが示された．

14.　^{123}I-BMIPP による腫瘍シンチグラフィの試み

田邉　芳雄　　周藤　裕治　　加藤　　卓
太田　吉雄　　（鳥取大・放）

脂肪肉腫 6 例，悪性線維性組織球腫 1 例について，^{123}I-BMIPP の腫瘍イメージング剤としての有用性を検討した．脂肪肉腫に関しては，新鮮例の粘液型脂肪肉腫に ^{123}I-BMIPP の高集積が見られた一方，高分化型脂肪肉腫には ^{123}I-BMIPP の集積は見られず，^{123}I-BMIPP によって腫瘍の病理組織学的な差異を描出できる可能性が示唆された．放射線治療，手術後の再発脂肪肉腫には ^{123}I-BMIPP の集積は見られなかった．悪性線維性組織球腫 1 例では，viable な腫瘍に ^{123}I-BMIPP の高集積が見られたが，壊死組織は低集積であった．今後の症例の蓄積を必要とするが，^{123}I-BMIPP は腫瘍イメージング剤としての有用性が期待できるものと考えられた．

15.　^{67}Ga-citrate が著明に集積を認めた子宮頸癌右心室転移の 1 例

安田　浩章　　安藤　　公　　田岡　良章
生島　仁史　　柏原　賢一　　上野　淳二
吉田　秀策　　西谷　　弘　　（徳島大・放）

子宮頸癌の右心室転移巣に Ga シンチが著明に集積した 1 例を経験した．

症例は 41 歳女性．子宮頸癌にて広汎子宮全摘術ならびに放射線治療が施行された．術後 1 年で断端再発がみられ当科再入院となった．入院後，発熱，腹痛が持続するため，炎症巣の検索に Ga シンチを施行した．骨盤部再発巣に明らかな異常集積はみられなかったが左胸部に集積がみられ，SPECT，MRI から右心室の腫瘤が確認された．右心室腫瘤の診断は剖検後に確定した．

子宮頸癌に対する Ga シンチの有用性は必ずしも高くはないと考えられるが本症例では転移巣の発見に有用であった．

Presented by Medical*Online